

阪南 2 区における干潟現地実験

沿岸海洋研究部 海洋環境研究室 室長 古川 恵太 主任研究官 岡田 知也



1. はじめに

海洋環境研究室では、2003年度より、具体的に都市臨海部に干潟を取り戻すというシナリオ実現のためのプロジェクトを開始しました。プロジェクトの研究目的は、個別技術を統合し、総合的技術開発が必要となる生態系の連携手法や、生物多様性の保全手法を確立することと、開発した技術を市民と合意形成をしつつ実現化していくシステムを構築することです。すなわち、「どのような干潟を、どうやって再生していくのか」という問いかけに答えるための研究と位置付けられます。

2. 阪南 2 区整備事業と造成干潟について

阪南 2 区整備事業は、港湾物流機能の強化・拡充、背後市街地の環境改善及び緑地等水辺環境の整備を図り、併せて地域の振興に寄与することを目的として、岸和田市沖合で大阪府港湾局が実施している、約142haの埋立事業です（2012年度完成予定）。大阪府港湾局は、2004年 2 月末に、この事業地内に関西電力㈱の協力を得て、潮干帯約1.5haを含む総整備面積5.4haの干潟を造成しました。造成干潟は約33万 m³の浚渫土砂を基盤とし、土砂の安定をさせるための生分解性シート（数年で分解し溶解する布）を挟んで覆砂をすることで地形の安定と良好な生態系の成立を図る構造となっています。

3. 干潟創造実験

国総研では、2003年度より、この阪南 2 区において、干潟創造の共同実験を行っています。

共同実験は、国総研海洋環境研究室が中心となっており、大阪市立大学、大阪府水産試験場、民間 4 社（鹿島・大成建設・五洋建設・東洋建設）により推進されています。

この実験においては、別途、実験運営に関する委員会を組織しています。その構成メンバーは管理者である大阪府港湾局始め、大阪府企画部、大阪府環境農林水産部、独立行政法人港湾空港技術研究所、近畿地方整備局、堺 LNG（施工担当会社）と共同実験担当者であり、共同で実験の目的や進捗の確認、情報の交換などを行い、干潟が竣工する約 1 年前より実験計画の調整、役割分担などの話し合いを進めてきました。

4. 実験の内容

2004年 3 月より、本格的な実験が開始されました。干潟の安定性実験や、ヨシ原の造成実験、水質や生物の調査等が進められています。その成果は今後の都市臨海部における人工干潟の整備に活かされる予定です。

こうした取り組みにより、本共同実験は、大阪湾再生行動計画の社会実験のひとつとしても位置付けられています。

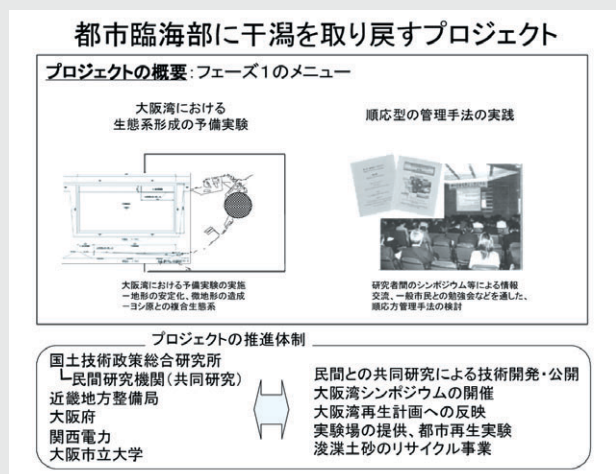


図-1 プロジェクトの概要